

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2010年8月1日

83号

エコツーリズムの聖地を訪ねる旅



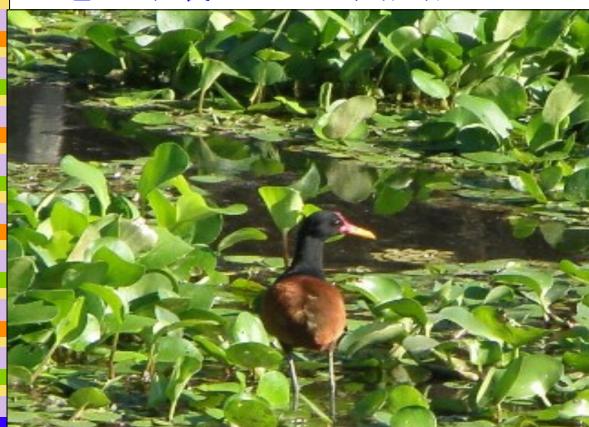
パラグアイ、チャコ地方 レダ基地に住むカピバラの家族（7月撮影 飯野氏）

南北米福地開発協会では南米、パンタナールの一画に位置するパラグアイ国、チャコ地方、レダにおいて環境保全、生態系の保護を目指し、活動をしてきました。十年の間、固い粘土層でかつて海であった所が隆起した所で、塩分も所どころ、多い困難な土地に適する樹を探し、植林を行つて来ました。現在は一万本を超える樹が順調に育ち、各種の鳥が飛来し巣を作るようになり、また、訪れる動物も増えてきました。上の写真は日本でも人気のあるカピバラの家族で、七月に久しぶりにレダの敷地内の支流沿いに現れました。十年前まではパラグアイ川本流で度々、見ることが出来ましたが近年はほとんど姿を見せることが出来ました。生態系維持、希少動物の保護を成すには、近隣のインディヒナの村の生活改善を成さない限り、貧しく狩猟で生きている村人に希少動物を保護してと訴えても効果はほとんどありません。

当協会では近隣の村に学校を建て、教育環境を整えながら村人が自発的に生活を向上させる道を援助し、村で植林活動をも推進し、現在は村が狩猟から農業に移行できるよう援助を開始しました。

環境保存と希少動物の保護には忍耐強い継続した働きかけが必要で、多くの方の支援と関心を必要としています。当協会では十月二日から十一日にかけ『エコツアーの聖地を訪ねる旅』を企画しました。都会の雑踏から解放され、神様を堪能し、絶滅寸前の希少動物に出会える貴重な創造された美しい自然を体験して下さい。

パンタナールは日本から見れば、地球の真裏にある世界最大の湿地帯で世界でもっとも貴重な生態系の宝庫で、世界遺産にもなっています。





南米大陸地図

エコツアーワークス (10月)

2日 成田出発
 3日 パラグアイ首都アスンション到着
 4日—7日 パンタナール地域
 (レダ滞在)
 滞在中：船でパンタナール景観を見る
 釣り、乗馬、馬車にのり自然観察
 記念植樹、鳥の観察
 インディアンの村訪問（異文化体験）
 7日—8日 世界最大の滝、
 世界遺産イグアスの滝見学
 南米の全ての美しい鳥を集めた
 バードパーク見学
10日 日本到着
 詳しくは南北米事務局に
 お問い合わせください。
 044-829-2821

インディヒナの村人も待っています。

キッチンスタッフも準備しています

レダでの最近の主な進展

①レダでは念願の魚の養殖を始めるため、生け簃作りが始まった。現在は二つの生け簃を作り、パクーの養殖をする計画です。すでにオリンポ市ならびにドイツ人移住地では養殖が始まっています。レダで成功すれば、レダと同じ、土壤、環境にある近隣のインディヒナの村でも養殖を始めることが出来、彼らの生活の糧となると期待しています。特にパクーは雑食で、レダ近辺に無数に成長するヤシの樹の実を好み、それ以外にも餌を現地から調達する事が難しくないのでもインディヒナの村でも成功する可能性は大きいと考えられます。鳥によつて稚魚が食べられないためには池の深さを2mにする必要があるようですが、一つの生け簃に四〇〇〇匹の魚を養殖できます。

②古市君、平野君、そして武藤君の三人の日本の青年がレダでの長期間奉仕に活躍しています。青年達は体力も、意欲もあり、熱心で作業を覚えるのも早く、また、近隣のインディヒナの村からレダに働きに来ている労働者とも年齢も近く、すぐに友人（アミーゴ）になり、覚えたスペイン語での交流も積極的に行っています。レダで奉仕する青年達はこの貴重な機会を有効に使うため、午前は労働、午後の時間はチリから指導に来ているウイルソン氏からスペイン語の講座を受けています。

レダ開拓を担う青年が今後も多く日本だけでなく、世界から集まり、南北米福地開発協会の目的である世界の人々がともに働き、助け合い、人間と自然の調和をなす環境を作るため来ることと思ひます。現在、レダに滞在する青年がそのための道筋を作つてくれるヒレダに滞在する飯野先生、中田先生始め先輩方が教育に投入しております。事務局ではレダで奉仕を希望する青年を募集しています。希望者は連絡ください。



元気に生け簣作
りに励む大山さん、
武藤君と現地の労
働者



塗りをする為、三名の若手を出発。昨日はまず下見を兼ねて出かけたが、その間に塗る前に4時迄大掃除作業に追われた。十三日から本格的にペンキ塗りが出来る労働者と一緒に作業が始まります。また、パンタナールでなければ体験できないアナコンダ（二m半）に初めて触れました。大きいのは十mにもなり、時には釣り人を飲み込むことがあると聞いてびっくりしていました。毒性はありません。



何故、今、地球上に樹を植えなければならないか?
三回講座シリーズ

地球の緑を守る会

特別集会案内
7月十一日、地球の緑を守る会理事長を迎えて、第一回の講座は七十名近い参加者が熱心に聴講しました。

第二回目は八月一五日(日)左記のように行われます。

〔第一講座〕
間違いの内環境対策は生態系の仕組を正しく理解する」とから

★生態系の原理は「多様性」と「共生」

★生態系のすべてのメンバーは相互に深く関係しているので、どれが欠けてもうまく機能しなくなる(地球上に無駄なものはない)

★人間も他の動物たちと同様、生態系の一員である以上、生態系の主役である緑の植物の寄生者の立場でしか持続的に生きていけない

〔第一講座〕

《なにが真に有効な環境対策か》

★CO₂排出量規制(対応・太陽光、水力、風力、地熱などのクリーンエネルギーの普及)

★バイオエタノールの活用
★森林の再生および創造
★環境問題の行動原理

場所：溝の口、大山会館

日時：八月十五日午後二時四時

参加費：千円(資料代含む)

申し込みは事務局に

第十回国際協力青年奉仕隊への参加者募集が多数あり、応募した全ての方が提出した小論文が素晴らしい事務局として選ぶことが難しく、くじ引きで参加者を選ばざるを得ませんでした。

本来、十名を選抜する予定でしたが今年は支援が例年に比して厳しい現状ですが青年達の世界に出て、奉仕をしたいとの意欲を感じ、十二名の隊員を選抜に漏れた方も来年に期待し、再度、申請して下さるよう念願します。

〔参加の動機と将来の夢〕

「私は今、大学二年生です。教師になる」と目標にし、日々勉強の毎日です。参加の動機は、私たちは『世界』という大きな枠での大家族なのだ、ということを実感したいと強く思つたからです。高校生の頃、大学受験を考えていたこともあり、自分はどんな人になりたいのか、何をしたいのかを考え、悩んだ時期がありました。なかなか答えにたどり着かなかつた時、とにかく色々なことにチャレンジしよう、と思い、勉強も部活も力を入れ、今自分に出来るることを一生懸命しました。

そこで感じたことは、一つの目標に向かつてみんなで努力することの素晴らしさ、その間で築いた関係性の貴さです。だから私は、一人でも多くの人と、特にこれから未来を築いていく中高生とともに世界の未来をみたいと感じ、教師にならうと思いました。その前にも私は自身が広い世界を知り、輝く世界を創る一人一人だという自覚をもちたいと思いました。今回の参加を希望しました。」

地球家族として
自然を守りましょう

南北米福地開発

協会会員の募集

南北米、パラグアイ、パントナール地域へのエコツアーナラビに植林活動を通じて



第九回青年奉仕隊植樹

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。また、各種のセミナー、エコツアーエ等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局
〒二二一三一〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三一十一一十五

電話 ○四四一八二九一二八二一
F a x 八二九一二八二〇
会費納入 岩崎ビル四F
郵便口座 八二九一二八二〇
一〇一八〇一七七六八〇四七一
代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ http://www.asd-nsa.jp

溝の口、大山会館
八月十五日午後二時四時
千円(資料代含む)
事務局に